

尾張西支部

「施設見学会」開催

尾張西支部（新家義彦支部長）は3月7日（火）今年度を締めくくる研修事業として、支部会員22名の参加のもと施設見学会を開催しました。

参加者は稲沢勤労福祉会館、津島生涯学習センターの2か所に集合後バスにて視察に向かいました。新家支部長は「久々の施設見学ですが、今回は2つの会社を見学させていただき、今後の事業の進展に役立つ取組を見つけていただきたいと思います。」と挨拶がありました。

最初に平成27年6月に完成したオオブユニティ（株）横根バイオガス施設（大府市横根町惣作236番1）を訪問し、相木 徹社長、藤崎課長の出迎えを受け、工場を案内していただきました。この施設は生ごみや食品廃棄物、有機汚泥、有機廃液をバイオガス化設備でメタン発酵（湿式中温メタン発酵）させ、バイオガスを回収し、ガス発電の燃料としてリサイクルする中部地区最大級のバイオガス発電工場です。温暖化ガスの削減効果に優れ、愛知県からも表彰を受けています。

藤崎氏の案内で施設に入り、1日70トンの生ごみ、食品廃棄物を受け入れる受入ピットから廃棄物を破碎、分別する前処理の流れと処理することでのような性状になるのか細かい説明を受けました。その後建物の外に出て発酵したメタンガスを貯めるガスホルダー、メタンガスを燃料にしたメタンガス発電機を見学しました。発電量は1日15,000kwhで1,500世帯相当の電力になります。この他熱エネルギーは工場内で有効利用され、メタン発酵後の残さは乾燥機を経て堆肥として地域内で活用されています。最後に施設内で発生した臭いは全て空気を遮断して臭気を処理する脱臭設備を見学しました。この設備により施設内も外も臭いはなく周辺への環境対策も万全でした。



金田社長と参加者の皆さん

次に、汚泥処理・汚染土壌処理で多くの実績を誇るサンコーリサイクル（株）（東海市浅山三丁目190番地）を訪問し金田英和社長、金田 琳専務の出迎えを受け工場を案内していただきました。同社は最近の都市再開発や建物解体での土壌浄化が活発化する中、受入体制の規模拡大が大きな課題でしたが、昨年工場を2倍に拡張し、浄化した土壌置場を確保した新工場を完成させました。

新工場を見学後、屋根一面に敷き詰められた太陽光パネルを見学し、工場内の電力、非常用の電力源として利用し、環境への負荷を軽減しているとのことでした。その後、屋上に避難場所として設置されたスペースに入り、新工場の紹介、同社の事業内容（汚染土壌、汚染汚泥、建設汚泥）をビデオ放映にて拝見しました。同社は東海市と協定を結び、避難ビル認定を受けていることもあり、施設の屋上は災害時の防災拠点としての役割を持ち、地域の皆様の安全を守る役割も果たしているとのことでした。そのため工場の高さは津波による浸水を考慮し、高さ10メートル、建屋の下部は高さ3メートル、厚さ30センチのコンクリートで覆われ、建物基礎は400本以上の杭を打ち込み強固な設計をしています。収容人数は200名、期間は1週間ほど避難生活を送ることができ、毛布・食糧・水などが備蓄されていました。

帰路の車中では、各社参考にさせていただきたい点についてまとめを話し合い、充実した施設見学会となりました。